SADE
サド
II
魔性の姫
千之ナイフ
SENNO KNIFE 古典名作集5
青林堂

古典名作集 5

SADE

サド Ⅱ

魔性の姫

千之ナイフ
SENNO KNIFE

青林堂

SADE II

CONTENTS

✳堕天使の島✳
3

✳インキュバスの卵✳
23

✳姫✳
43

✳恋する人形✳
63

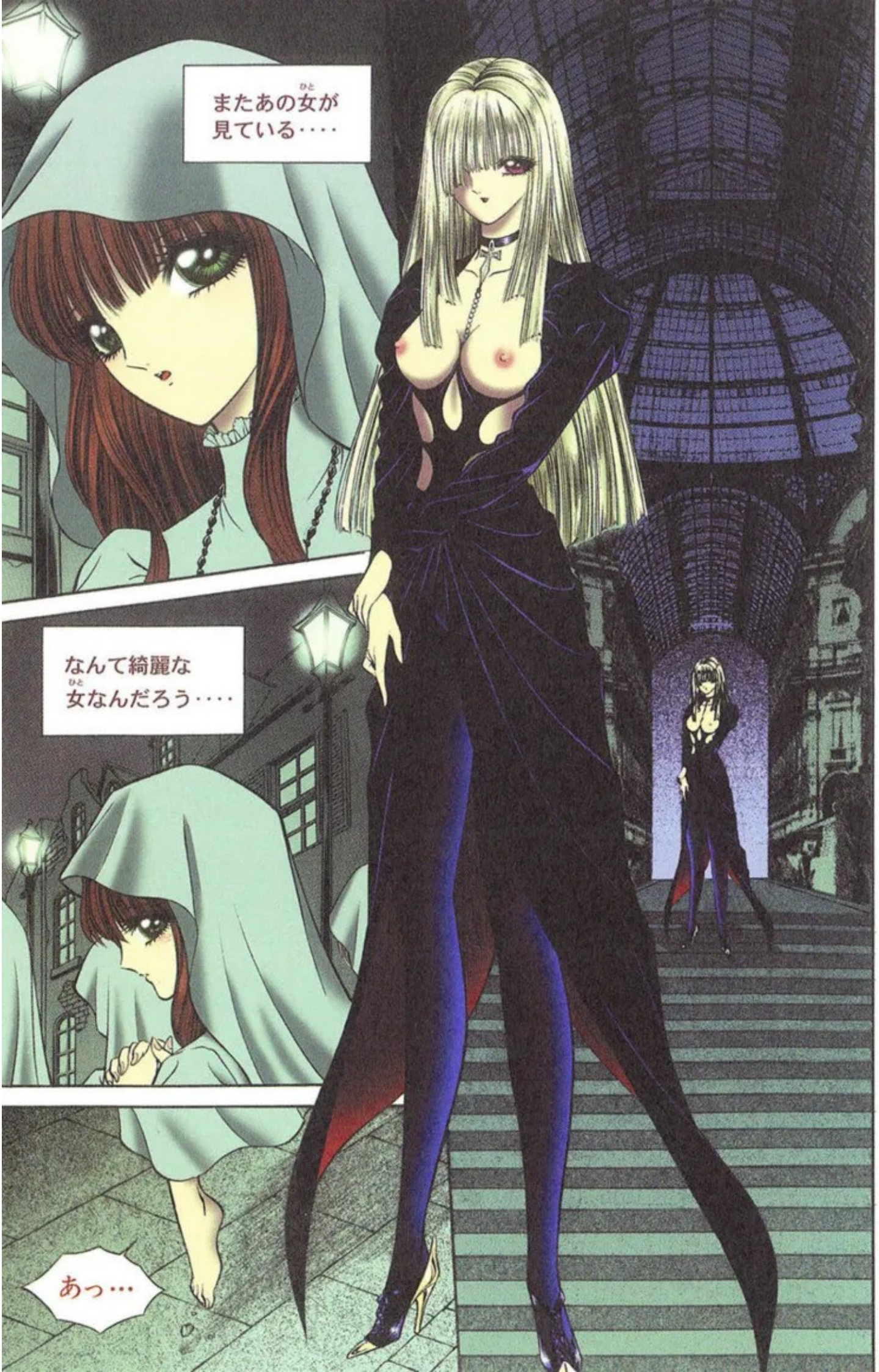
✳Iミリーと奇妙な腕✳
95

✳SADE 薔薇の館✳
ACT・I 135
ACT・II 159
ACT・III 181

Velvet
堕天使の島

足が痛い‥‥
いつまで
歩きつづけるん
だろう‥‥‥

来る日も来る日も
歩きつづけて‥‥
そして一生を過ごして
いくんだろうか‥‥‥


またあの女が
見ている‥‥
なんて綺麗な
女なんだろう‥‥
あっ…

ま 待って…

あ…

血が出ているわ
手当てしないと
……

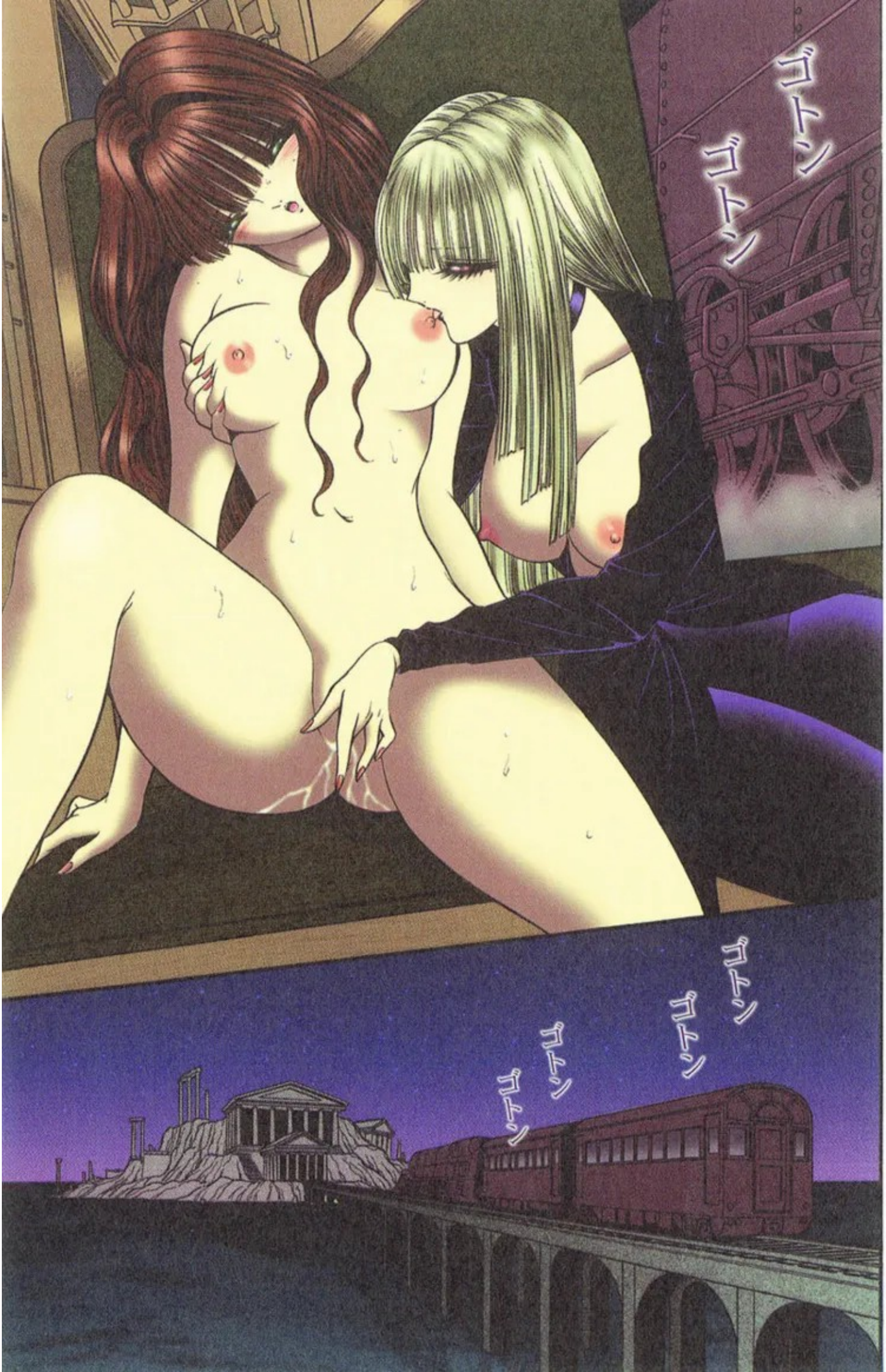
大丈夫…?

あ……

ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン

あ…

ゴトン
ゴトン


ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン
ゴトン

あ あの……
ここはいったい

ゴトン
ゴトン

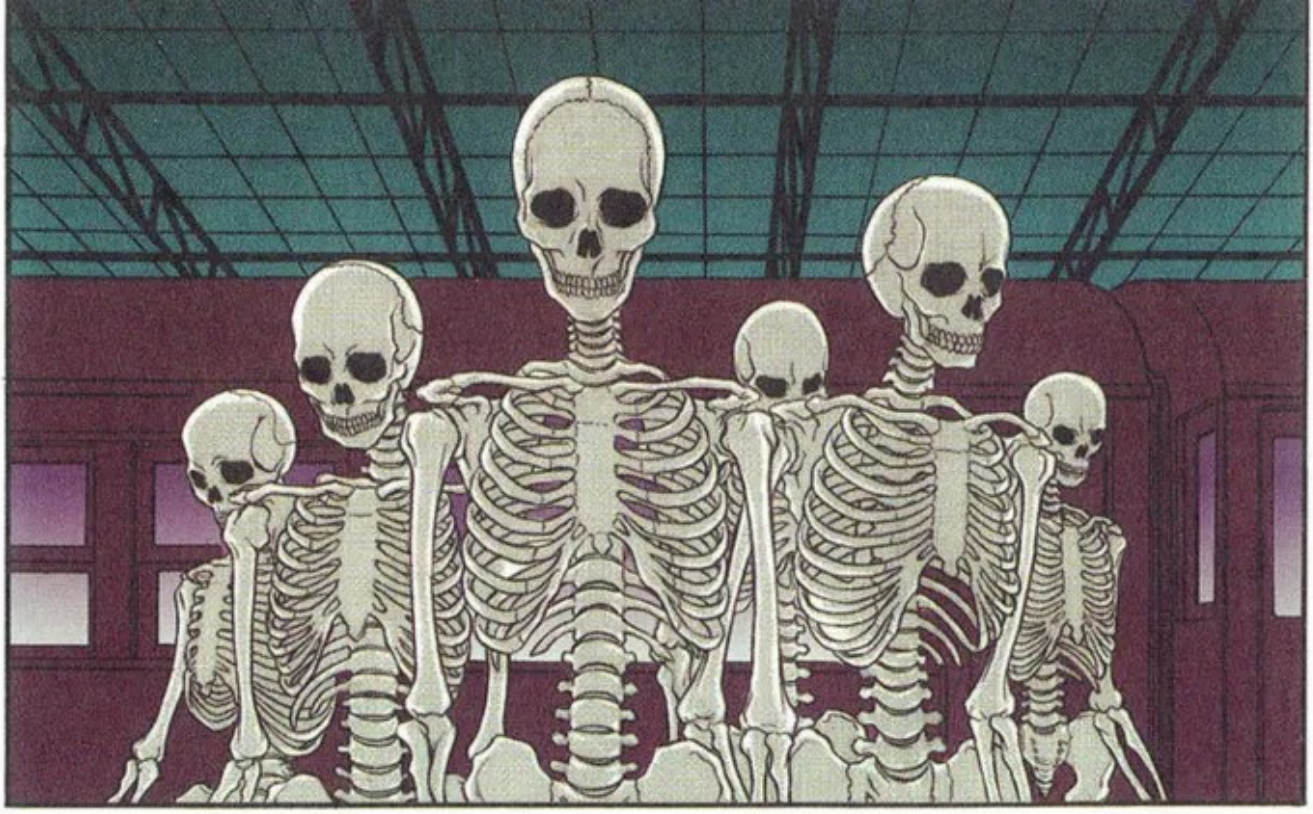
ギギギギギギ

ここは
堕天使の島
ベルベット

堕天使の島？
……
さあ…
あなたは
こっちよ
あ……
ま 待って!!
私は…

さすがは
バイオレット様が
選んだ娘……
綺麗なカラダ…
これならきっと
お客様に悦んで
もらえるわ
あ
ああ…

いいこと…
この館の中では
あなたのカラダは
お客様のもの…
お客があなたを
抱きたいと言ったら
あなたはそれに
従わなくては
ならない…
それがここ
ベルベットの
ならわしなの
だから……
大丈夫…
お客はみんな
骸骨か何かだと
思えばいいの



なんて綺麗な娘なんだ…

フフフ…こっちの方も……

ああっ

いいや!!

やめて…
やめて
下さい!!

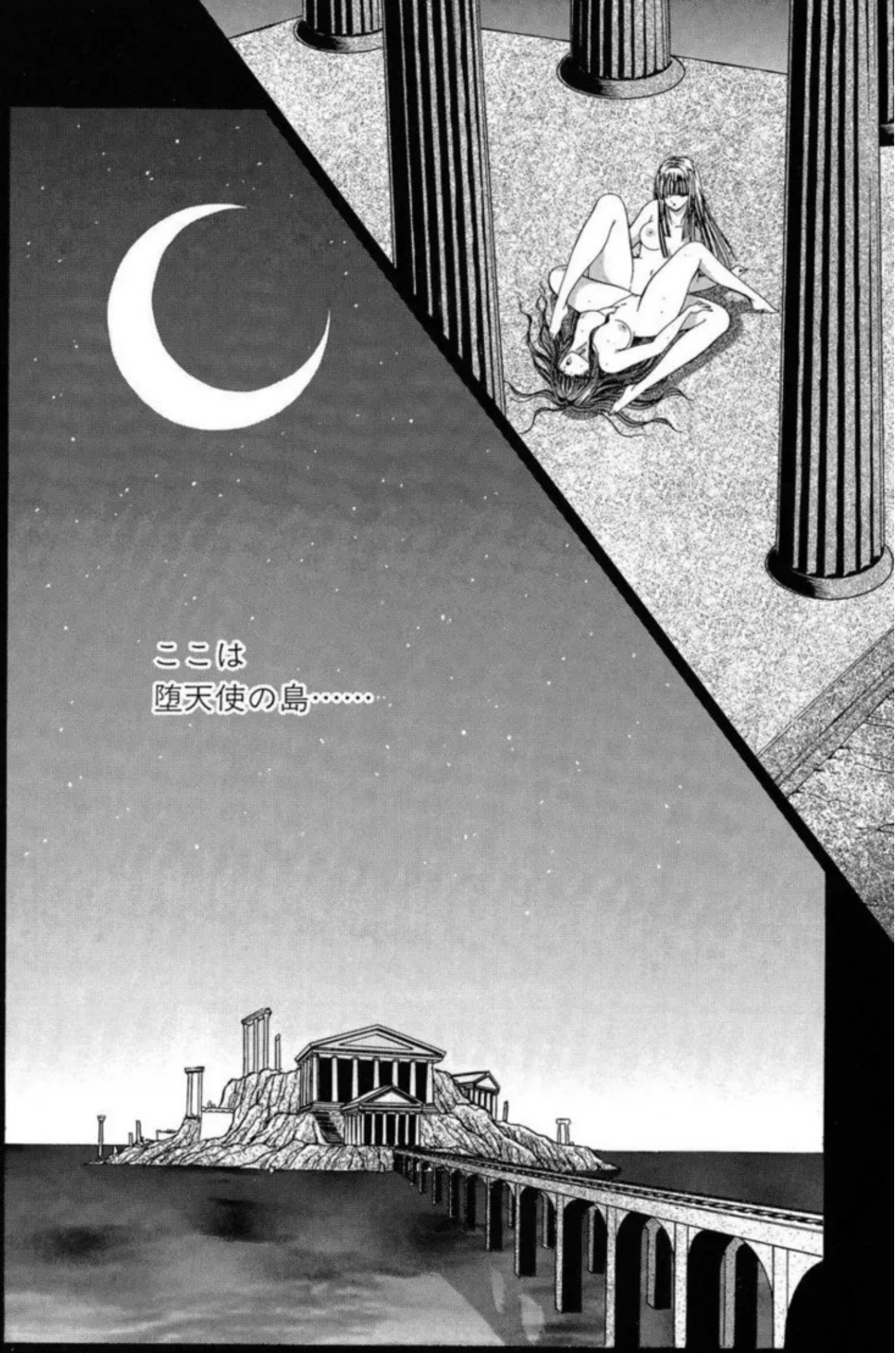
あなたは
ベルベットの
掟に背いた…
罰を受けねば
なりません…

あっ
ああっ

あなたが
ここに来たのは
あなたが心の中で
そう望んでいたから
なのよ……
わ 私は…

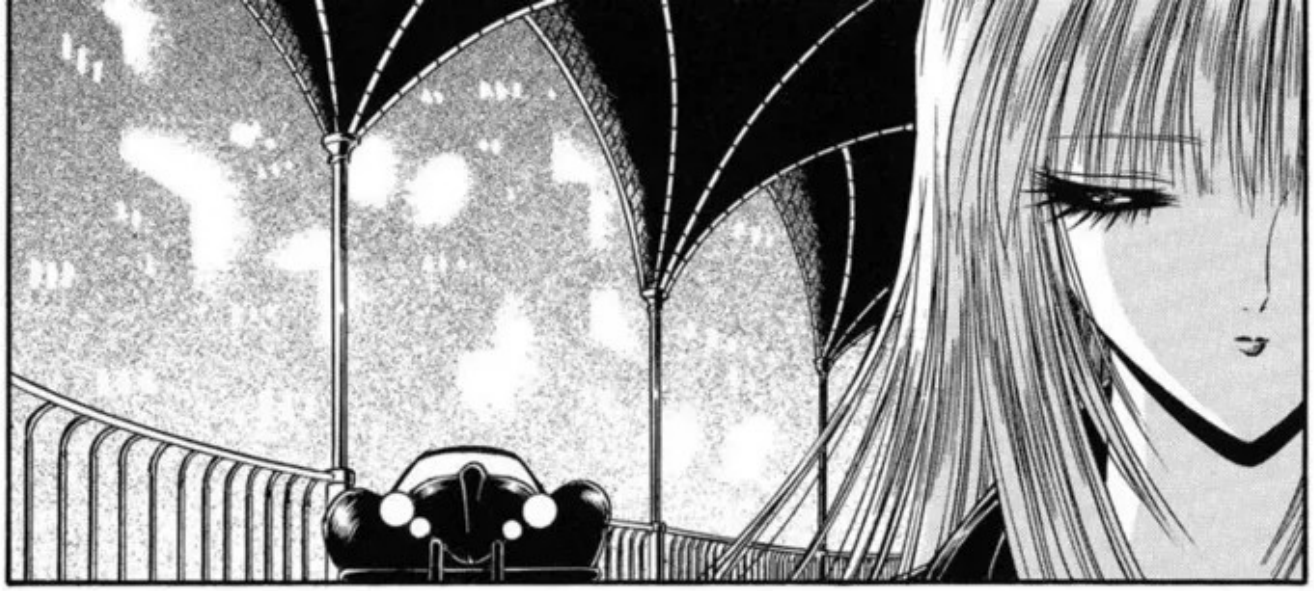
はあぁ
こんなに
濡らしちゃって
ああっ
ああん…
さあ…言って
ごらんなさいな
私はみだらな
娘だと…

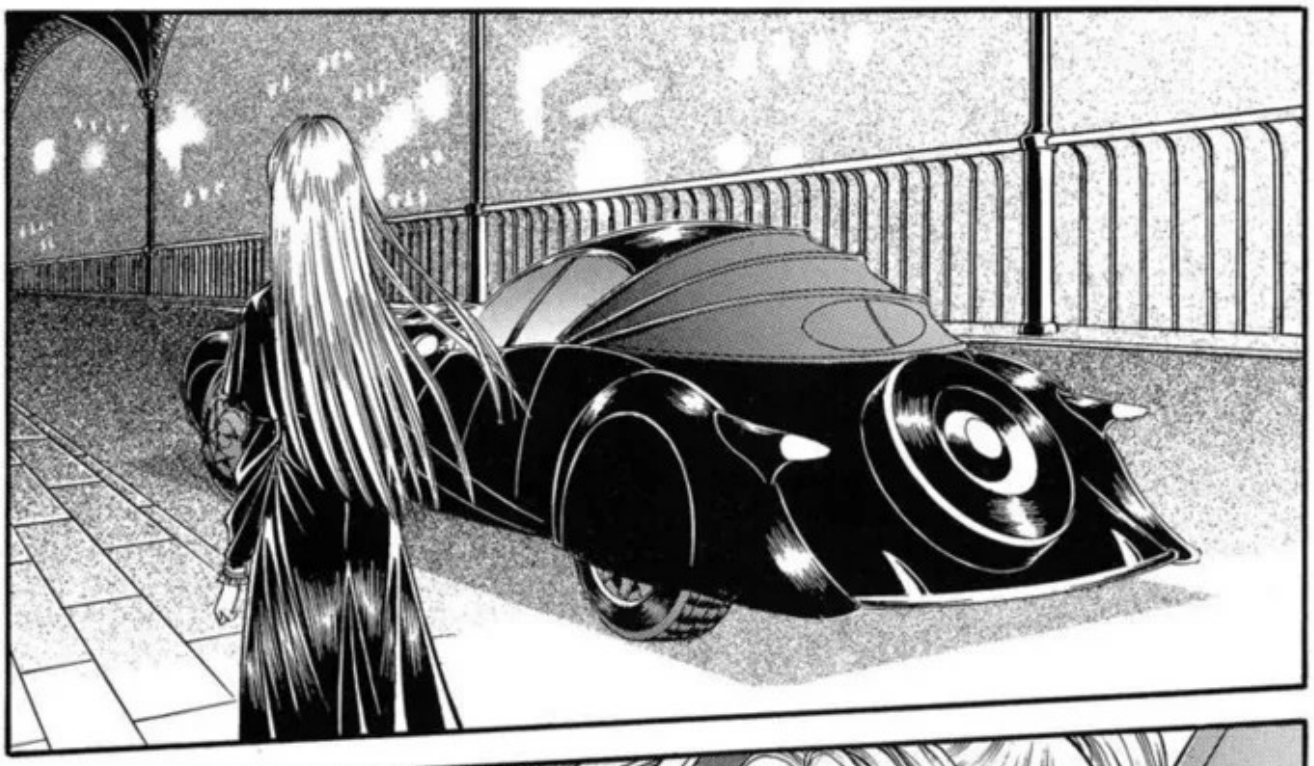
だ…
だから……
わ、私は…
私はみだらな
娘です…
だから
もっと……
そう……
私が望んだ
こと……
すべては
私が……



堕天使の島※おわり

インキュバスの卵





あなた
どうなさったの？
こんな夜中に

あの…

えっ？

なぜ私に
声を…？

そうね…

あなたを
見かけた時に
何となく…

私…
胎内に淫魔(インキュバス)を
宿しているんです

あれは
二週間ほど
前のこと…

私はこの街の
小さな骨董品店で
働くことになりました

あ あの私……

ん……？

ああ…
今日からこの店で
働いてくれる子
だね…？

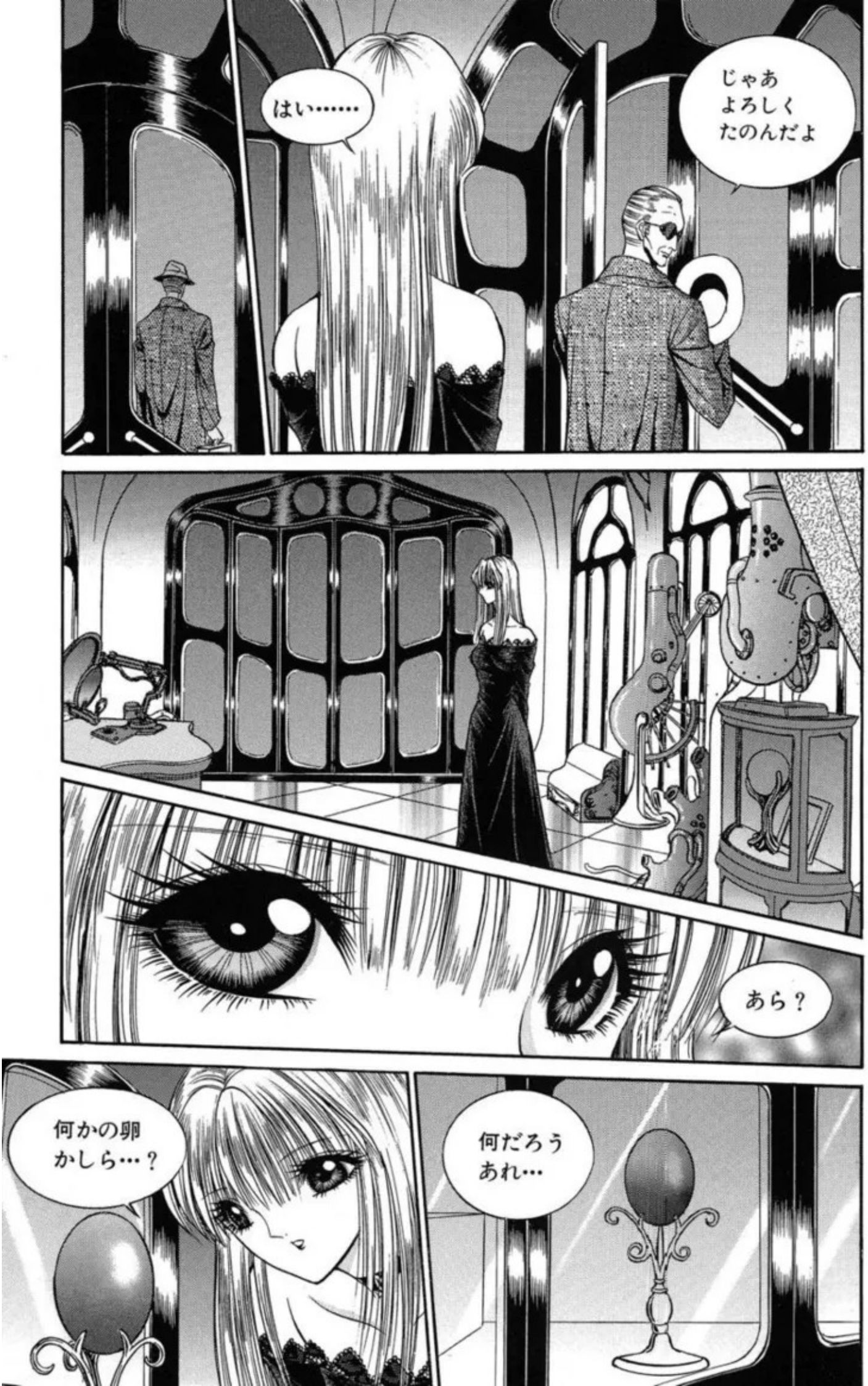
えっと
名前は…

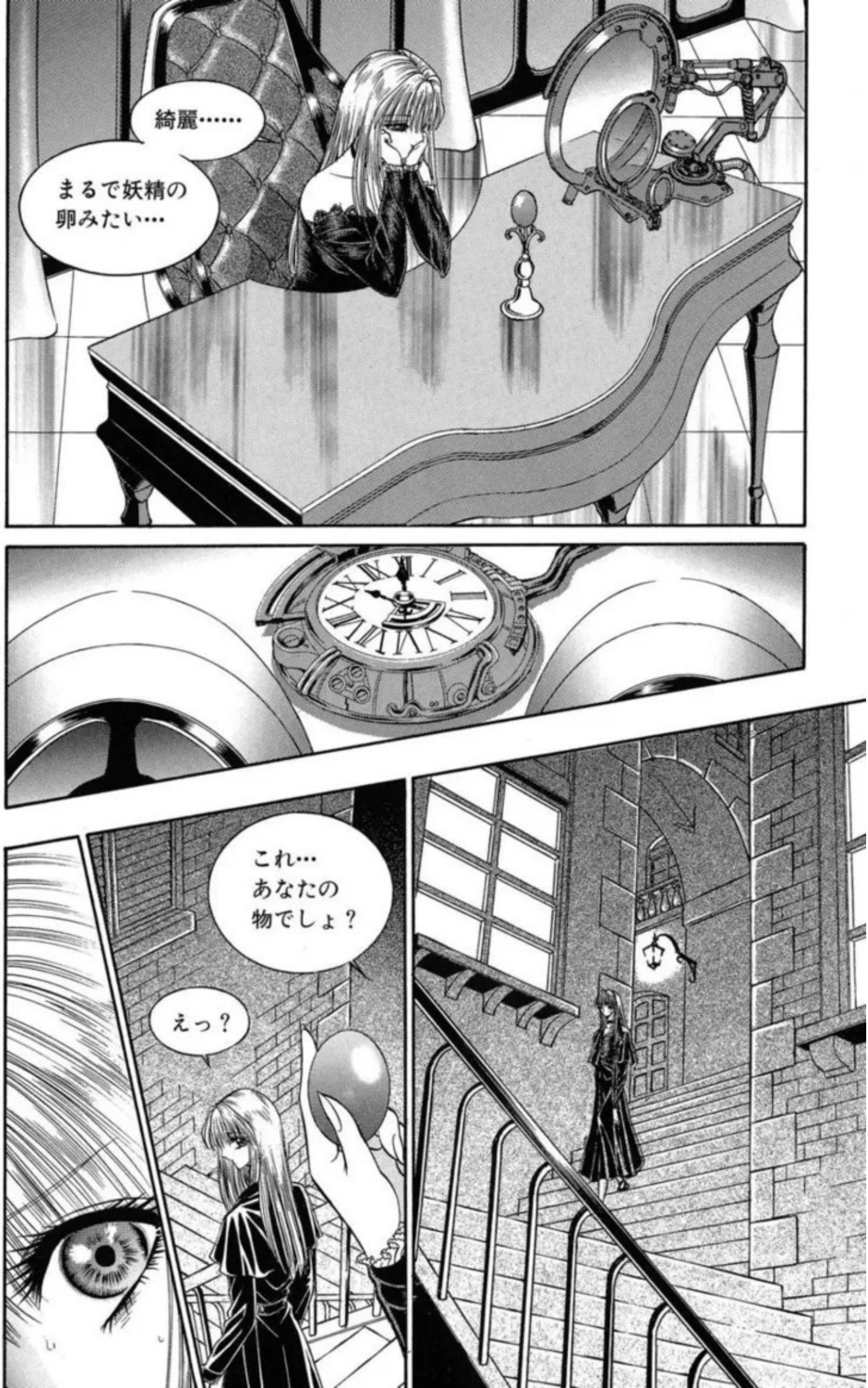
クリス…
私はこれから
用事があってね

早速で悪いが
店番をしてて
もらいたいんだ

クリス
です……

よろしく
おねがいします


じゃあ
よろしく
たのんだよ
はい……
あら？
何だろう
あれ…
何かの卵
かしら…？


綺麗……
まるで妖精の卵みたい…
これ…あなたの物でしょ？
えっ？

素晴らしい色の
淫魔(インキュバス)の卵
だわ…

こんな美しい
のを見るのは
初めて……

あっ
あなたは!?

私…!?

淫魔(インキュバス)の卵
……?

えっ?

いいえ
淫魔(インキュバス)の卵が
あなたを
選んだの…

今日から
あなたの物に
なったのよ

でも…
それは私の
物では…

あ……
ああっ!!
さあ…
足を広げて

あっ
あっ…

ハッ!!
わ 私…
夢を……
そ そんな
卵が……
きっと
どこかに
転がってる
はずだわ

あなた
誰？……

ああ…
パパが言ってた
新しい店員さんね

用事でお出掛けに
なりましたけど…

ねえ
パパは？

そう…

ええ
どうぞ

ねえ
ここで待ってても
いいかしら？

困ったわ
!!
卵が見つからないと…

い、いや……!!
あっ…
ああっ

ハア…
ハア…
ハア…
ハア…
あっ
ああっ…

今まで
味わった事もない
快感……
それは
淫魔(インキュバス)の卵が
私の胎内で孵(かえ)った事の
証しだったのでしょう

お
おねがい…
私を
姦して……
ハア…
ハア…
ああっ
はやく…

私の肉体は
完全に淫魔に支配
されていたのです
あっ
ああっ

気がつくと
私は
お嬢さんの中へ
淫魔(インキュバス)の精液(エキス)を
そそぎ込んで
いました

私は怖くなって
店を逃げる様に
出たのです

でも…
どこに逃げても
同じこと……

街の娼婦や
貴婦人までも…

まるで何かに
取り憑かれたように
私のところへ……

そんな私も
淫魔(インキュバス)の欲望には
さからうことが
できない……

そして…
卵が生まれる。

淫魔(インキュバス)の卵が
……

あなたの話
信じるわ……

だから今夜
私の中で……

インキュバスの卵 おわり

姫

今夜も
客なしか…
またおカミさんに
どやされちゃう。
こんなところに
暮らしているから
だろうか。
見上げれば
いつも上の街は
キラキラきらめいて
見える。

上へ上へとそびえる街
いつしかあそこは
夜光城と呼ばれる
ようになっていた。
あそこにはいったい
どんな人たちが
暮らしているのだろう
……
一度でいいから
私も……
可哀そうに
こんな所じゃ
寒かろう……
どうだね？
夜光城で働いて
みないか……
えっ!?

さあ、
お入り…
ミヤビ様
新しい従者を
連れてまいり
ました…

なんて綺麗な女
なんだろう…
まるで女神様みたい
……

今日からミヤビ様の
御付きとして
世話をしてさし上げ
るんだよ。

はい……

私……
レミです…

どうぞよろしく
お願いします…

あの、私
光栄です。

ミヤビ様みたいな
綺麗な方のおそばで
働けるなんて…

あなたは
誤解している
……

私は
綺麗じゃない
のよ……

ミヤビ様？
……

御機嫌いかが？
ミヤビ……
お客様を
お連れしたよ
お通ししてくれ。
は、はい。

会いたかったわ
ミヤビ……
さあ早く
脱いでちょうだい。
ああ…
いつ見ても
綺麗よ。

あ……
あぁ…
や、
やめて…

ほら、どんどん
大きくなる…
すごい
あなたのクリス
……
あっ。
素敵よ
ミヤビ……

ああっ…
ああん。
ミヤビ様は
いったい…

驚いたかね？
ミヤビ様は
クリトリスを
肥大させる肉体改造を
施されている。
ここ夜光城では
「姫」と呼ばれる
高級娼婦なのだよ。
「姫」は男の客とも
女の客とも
相手ができる
完璧な娼婦
なのだ…

ミヤビ様
お茶が入り
ました…
いらない
……

も、申し訳
ありません。
あ、あの
私……

お客様だ
さあたのんだよ。
はい……
!!

あ…
ああん。
ああっ
ミヤビ…
おまえは
最高の女だ。

ミヤビ様
……

また
来るよ…

わかったでしょ
私がどんな
人間なのか…

ミヤビ様…

あなた
私のことを綺麗と
いってくれたけど
……

本当は……

そんなこと
ありません…

それでも
ミヤビ様は
綺麗な方です。

レミ……

私も…
下の方の街では
娼婦でした。

でも、自分が綺麗とか
汚ないとか
考えたことなんて……

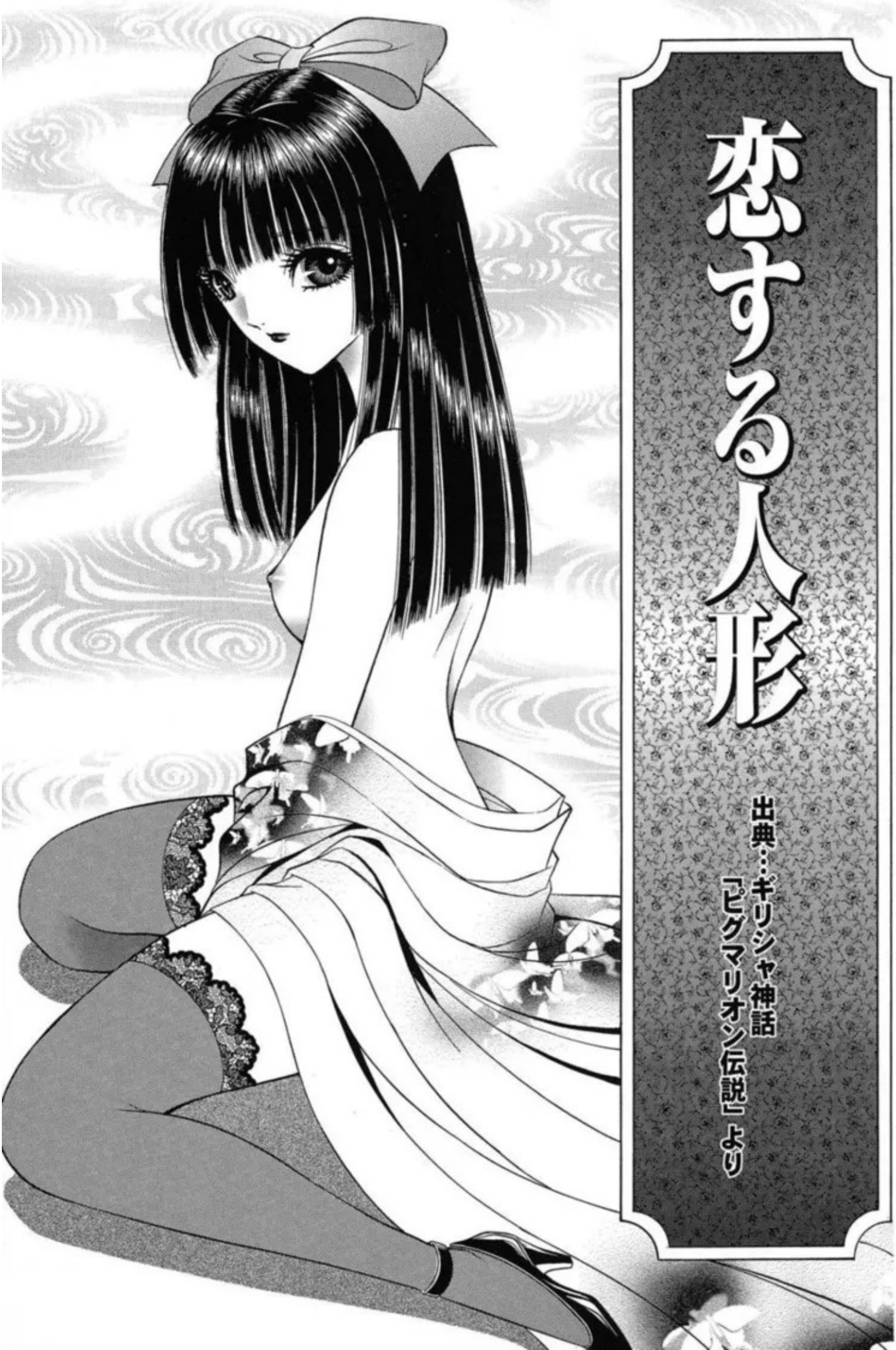
私はただ
ミヤビ様の
ことが…

私とミヤビ様は
今ひとつに
つながっている…
心も身体も
……

いつものように
たのんだよ…
はい…

いらっしゃい
ませ…

そこは いつも
……
終演おわり



恋する人形

出典…ギリシャ神話
「ピグマリオン伝説」より

私のおかしな物語をお話ししましょう
女学校を出てすぐおつとめを始めましたこのお屋敷には…
メイドの先輩の圭さんと雪子さん
あ…
そして…

うら若き当主の
幽也(ゆうや)ぼっちゃまが
いらっしゃいます

あ…
あの…

幽也ぼっちゃま
珈琲をお持ち
しました

あとでいい…
バタン…
幽也ぼっちゃま……

幽也ぼっちゃまは
数年前 お母様を
亡くしてからと
いうもの
外出もせず
このお屋敷に
こもりっぱなし
とか

お父上が
遠い異国でお仕事を
なさっている今
このお屋敷の中で
ぼっちゃまは
私たちメイドと
4人きりの生活

でも 誰も
幽也ぼっちゃまの
沈んだ心を
ときほぐすことが
できないのです

ぼっちゃまに唯一
心が安らぐ時が
あるとしたら

それは
……

あの素晴らしい少女人形との逢瀬のときだけ……
お父様の心づかいは果たして正しかったのかどうか…
綾花……

僕の綾花…
1人残された幽也ぼっちゃまが寂しくないようにと精密に人の形を模して作らせた少女人形
彼女がかわいそうな幽也ぼっちゃまの唯一の話し相手……
綾花…皆は僕を異常なものと笑うだろうが僕は本当に君を愛している
そして想い人…

綾花…
僕は時おり
思うのだ

もしも君の
その美しい唇が
ほんの少し開いて
声を出したら

その声は
どのような
愛らしい声で
あろうと…

神様…
なんと残酷な
ことでしょうか

私はこの
幽也ぼっちゃまと
少女人形との
崇高なひと時の
末席に入ることも
許されないのです

私は仕方なしに
私の魂を少女人形の
冷たい身体のなかに
置くことを想像します

私は今
少女人形…

そして…

幽也ぼっちゃまの
指が私の唇に
……

綾花
……

綾花
返事をして
おくれ

はい……

……
幽也ぼっちゃま
……

いつか僕の
一途な願いが
天に通じて

君が鈴を転がす
ような声で
僕の名を呼ぶのだ

ギュッ

ああ
……

あの人形になりたい…
人形になって幽也ぼっちゃまに愛されたい…

まあ 何とも
あきれた
新入り様だこと

ハッ!!

も…
申し訳あり
ません…

あんたの気持ちは
よくわかったけど
あのぼっちゃまじゃ
無理でしょうね

なにしろ想い人が
お人形なんだから

人形が
恋がたきなんて
勝負にならない
じゃない

それとも
人形にでも
なってみる?

え?

そうだ!
おもしろいこと
考えたわ!!

ぜ…絶対無理です
もし本当のことが知れたら…
いいからいいから
いいからだまって!!今紅を引くんだから
ああ神様…

どう？

まあっ！本当にそっくり!!

いいこと麻里…

決して声を出してはダメよあなたは今から人形なんだから

お人形が人間に変わったらぼっちゃま何て言うかしら!!

あははどきどきするわ!!

ああ
どうしよう

心臓の鼓動だけで
もうお人形ではないと
わかってしまいそう…

カチャ

来たっ!!

キイッ

綾花……
私は人形……
私はお人形……
あっ!!
これは……
ああ…もうだめ!!

僕の祈りが天に通じたのか
えっ？
聞いた？天に通じたのかですって!? あっははは
しっ!! 声が高い!!
綾花…返事をしておくれ……
その声を僕に聞かせておくれ
喋ったらばれてしまう……

どうしたことだ
願いが叶って
綾花は人になった
だが
その所作は
人形のままだ
そうして
本当に動きだして
くれるのだろうか？
ああ…
ぼっちゃま
……
綾花
……
もっと
強く願えば
やがてその
美しい唇から
声を聞かせて
くれるのか？

綾花…
何て柔らかな肌だろう
ああっ

あぁっ
そこはだめ!!

本当に人間の女の子になったんだね

蜜がこんなに溢れて…

綾花…

僕の恋人…

幽也ぼっちゃまが私の中に…

私はどうなってしまうの…
縛られて身動ぎもできない
この不思議な状況…
動かぬように
……
見えぬように
……

ぼっちゃま
珈琲を…
麻里ったら
茹でたみたいに
真っ赤よ
ウフフ
……

幽也ぼっちゃまは
気付いていない

昨夜
あなたが抱いたのは
この私だということを
……

わかってるわね
今夜も人形に
なるのよ

でも…
きっと気付かれて
しまいます…

こんな…

大丈夫よ
幽也ぼっちゃま
信じきってる
みたいだし

綾花…
今夜も魔法でこの僕と情を交わしておくれ…
ああ綾花…

幽也ぼっちゃまと
こんなことに
なれたのは
嬉しいはずなのに
いくら
声をあげて
お応えしたくても
それは叶わぬこと
今の私は
綾花人形として
愛されているのです
こんなことが
いつまで
続くのでしょうか
……

つまんない……

だって一生懸命作り上げた新しいお人形に幽也ぼっちゃまはぞっこんで…

私たち何にも関係ないじゃない覗き見してるだけだし

え？

それもそうね

だったらバラしちゃおうか!?

えっ!?

そろそろ別の展開を考えないとね……

綾花や…
今夜も魔法を
見せておくれ

幽也ぼっちゃま!!

ああ…
幽也ぼっちゃま
……

そんな!!

綾花人形はこちらですわ

そちらに居るのは真っ赤な偽物……

というよりぼっちゃまもよくご存じの者でございます

知ってたよ麻里…

ゆっ…幽也ぼっちゃま!!

ええっ!!

最初はあまりにも綾花に生き写しだったので一瞬 本当に人間になったのではと思ったけれど

そのうち気が付いたのだ僕が日々会っていた女性…麻里なのだと

そ…それではもうとっくにご存じで私を……

ああ…しかしいつどこでそれを告げたらいいのかわからなかった

僕が日々
話しかけていたのは
綾花人形ただ
1人で

その他のものに
心を割って
そんな重要なことを
切り出すなど
とても…

なのに今夜
そのきっかけを
お前たちが
作ってくれた

感謝しても
し足りないとは
このことだ

そっ…
そんなっ
お安い御用
ですわ

幽也ぼっちゃまの
為であれば…

ありがとう…
僕はこれから
麻里を人間として
愛していこうと思う

血の通った
少女として

幽也…
ぼっちゃま
……

よ…
よかった
ですわね…

本当に
オホ…
ホホホ…

そして
数カ月後…

このお屋敷で
私と幽也様は
慎ましやかに
結婚の儀を
執り行いました

私の物語は
これでおしまいで
ございます

恋する人形※おわり

エミリーと奇妙な腕
グリム童話「ナイフを持った手」より

あなたに
不思議な話を
聞かせよう

エミリーという娘と
奇妙な腕にまつわる
物語を……

エミリーは
とある富豪の屋敷に
引き取られることになった
母親が流行病で
亡くなったからだ

しかしエミリーに
待っていたのは
新しい家族からの
歓迎などではなかった

もともとおまえは
この場所で私たちと
寝食を共にする
資格などないのです

なぜならばおまえは
主人がたわむれに
卑しい女に産ませた
妾腹の子なのですから

けれど主人の寛大な遺志によってここに来ることを許されたのです

亡くなった主人に感謝しながら暮らすことですね

私はイヤよ!! こんな子がいきなり家族の一員だなんてそんなの絶対認めないわ!!

あなたもそう思うでしょアーノルド

ああ… アマンダ姉さんの言うとおりだ

行きましょアーノルド

キャアアアアアッ
い…いったい誰がこんな……

あっ…
クスクス…
このふたりの仕業(しわざ)……

やがてエミリーは
このふたりの姉弟が
思った以上に残酷な
心の持ち主だと知った

ああ…
アーノルド

姉さん
……

!!

ハンス おまえは使用人の分際でいやらしい目で私たちを見ていただろう

お…お許しをアマンダさま……

ダメよ ハンス 罰としておまえは今日一日中そこでカラスを追いはらうのよ

かかしとしてね

ハハハ…

かわいそうにハンス…

今スグ降ろしてあげるわ
ガリ
しっかりしてハンス…
うぅ…
ハンスの腕…なんて太くて逞しいんだろう

ありがとうございますエミリーさま…

このことは一生忘れません……

いいのよハンス…

やがてエミリーとハンスは互いに惹かれあい愛しあうようになっていった

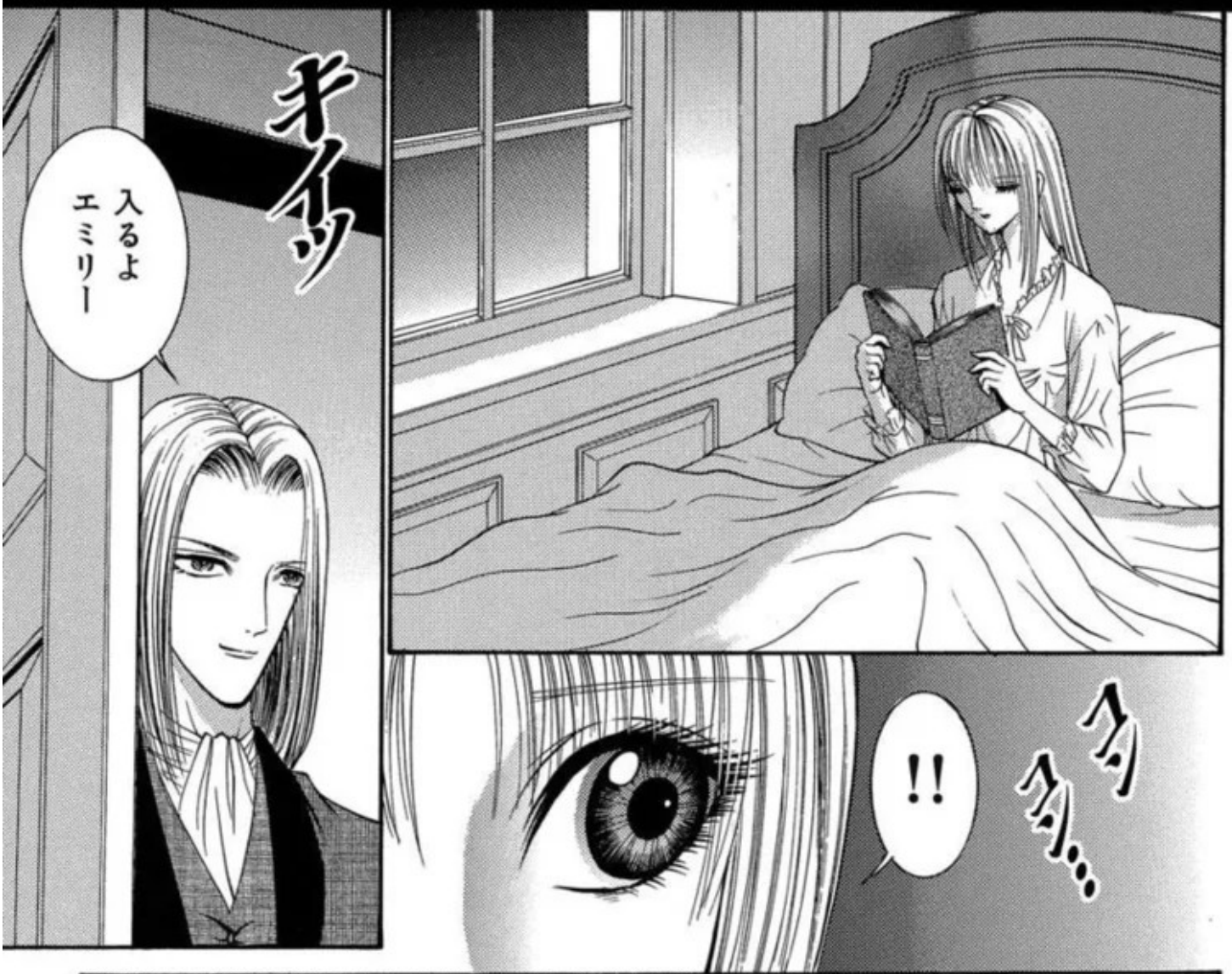
ハンス…愛してるわ

あなたと
一緒にいる時が
一番幸せ…

あなたと
ふたりで暮らせたら
どんなに素敵な
ことでしょう…

いつかあなたを
あの屋敷から
連れ出し
きっと幸せに
してみせます…

ああ
ハンス…


入るよ
エミリー
ギイッ
!!
クラ
クラ…

さっき
ハンスと小屋に
いただろう？
え……

何をしていたんだ？

べ…別にただお話をしていただけです…

ウソをつくな知ってるんだぞ俺は…

おまえとハンスができてるってことなんか…

さすがは卑しい妾の血をひいた娘だ

男なら誰とでも寝るんだあんな薄汚い男とでも…

こんなことを母上が知ったらどうなることか…

父上の遺志でしかたなく側(そば)においてやってるだけで本当はおまえのことを憎んでいるのだからな

ま…
おまえ次第では
黙っていてあげても
いいのだが

グッ

あっ…

俺の求めに
応じるなら
……

うっ!!

や……
やめて!!

ハンスがどうなってもいいのか？
ハンスが……
使用人の分際で家族の者に手を出したんだただでは済まないだろう…
ハンスのことが本当に好きならば俺の言うとおりにするんだ…

あっ
あぁっ
許して
ハンス…
私の心は
あなたのもの
だから…
だからお願い
私を許して!!

アーノルドが
エミリーの
部屋から?

カチャ

!!

どういうこと!?
これは……

そうだわ…きっと
エミリーが
アーノルドを
誘惑したに
違いないわ!!

許せない!!

私の大事な
アーノルドを
……

ハンスは今
どうしてる
かしら…

ザリ
ヒヒヒヒヒヒヒヒ
ああっ!!

キャアアアア〜〜〜ッ
エミリーさま!!

ドッ
あっ!!
ドッ
ドッ

ハ……
ハンス!!

ハンスーーッ!!

主よ…
若き魂を天国へと
導きたまえ…

かわいそうになぁ
こんな事故で
死んじまうなんて

HANS
BEVOL

そういえば馬車に巻き込まれた時に片腕が切断されたそうだね…

ああ…その腕だけどうしても見つからないそうだよ…

ごめんなさいハンス……

私のためにこんなことに……

ハンスと過ごした小屋……

だけどあの人はもういない…

うっ!!

バタッ

ハンスとの思い出に浸っていたか？

だがあいつはもう死んだんだ…早く忘れるんだな

オレがその手助けをしてやってもいい

やっ
やめて!!

放して!!

ブツブツ

!!

ビッ

ガリ
ボキッ
うぐっ!!
ぐ……
く…苦し…
ゴト…
あぁ…

ズッ
ズッ
ズッ

こ…
この腕は…

間違いない
ハンスの腕…

おお アーノルド…
いったいあの子は
どこに行って
しまったの？

ぐっ

エミリー

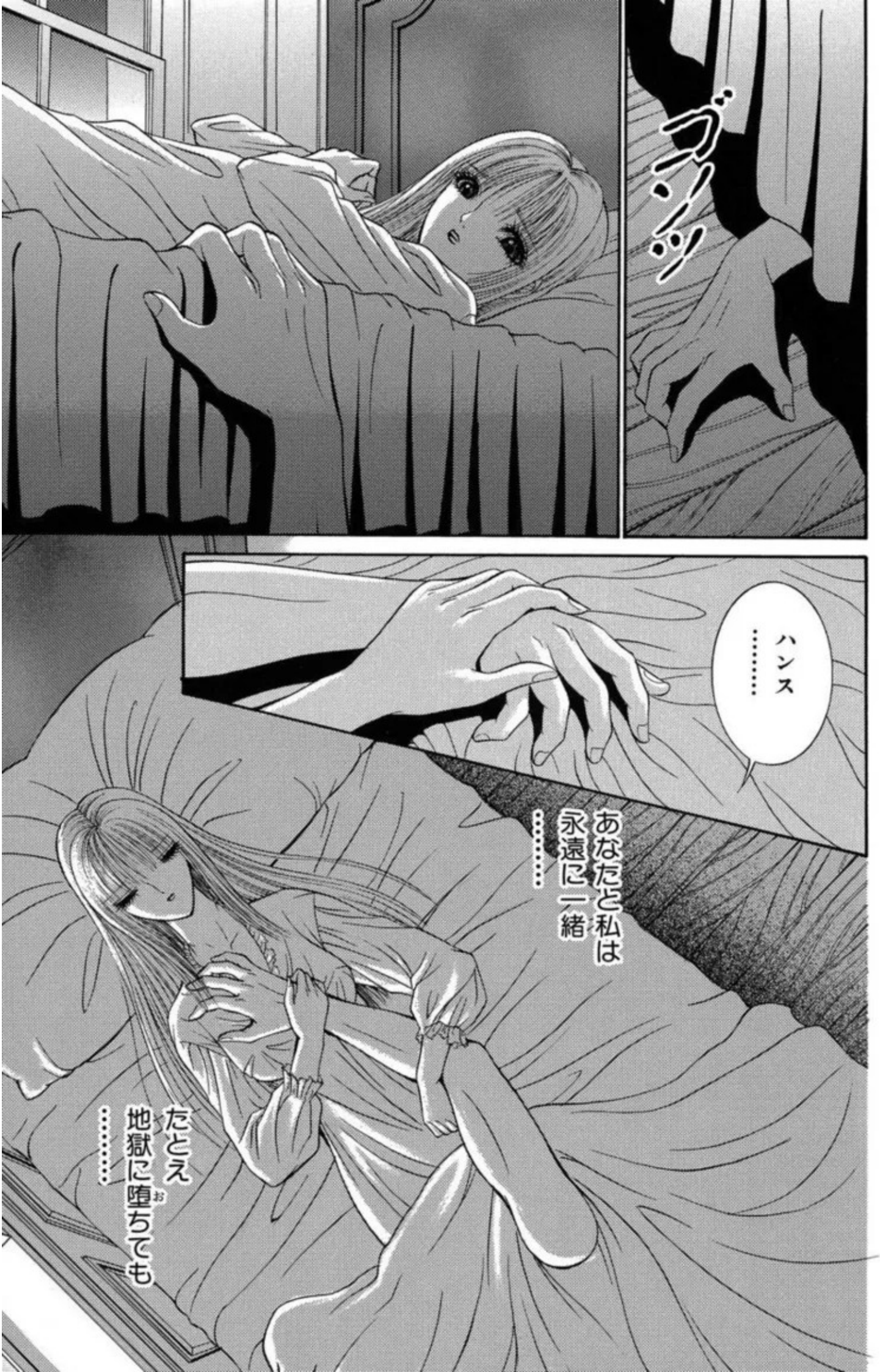
あなた 何か知ってるんじゃないの？

何か隠してるとためにならないわよ……

知らないわ私……

ああ神さま…

どうか私とハンスの罪をお許しください…


ブツッ
ハンス……
あなたと私は永遠に一緒……
たとえ地獄に堕ちても……

大変だぁ〜っ!!
アーノルドさまの
死体がぁ〜っ!!

アーノルド!!
私のアーノルド!!

誰がっ!!
誰がこんな
酷いことを!!

アーノルド
〜〜〜ッ!!

ギュッ

や……
やめて!!

おまえたち
もういいわ

さあエミリー
白状なさい!!
アーノルドを
殺したことを

あの日あなたが
アーノルドと小屋に
入っていくのを
使用人が
見ているのよ!!

し…
知りません
……

ごまかしても
ムダよ!!
ああっ
ナナナナナナナナナナ
ビシッ
ガッ
うぐっ!!

あぁっ!!
ぐぐ……
ギギッ
ギッ
や…やめて〜っ
ハンス!!
ポキッ

ドサッ

あぁ…

そ…
そんな…

エミリー!!

エミリー
ここを
開けなさい!!

ドン
ドン
ドン

エミリー!!

ドン
ドン
ドン

どうしたらいいの…ハンスがまた人殺しを…

神さま…どうかハンスを止めてください

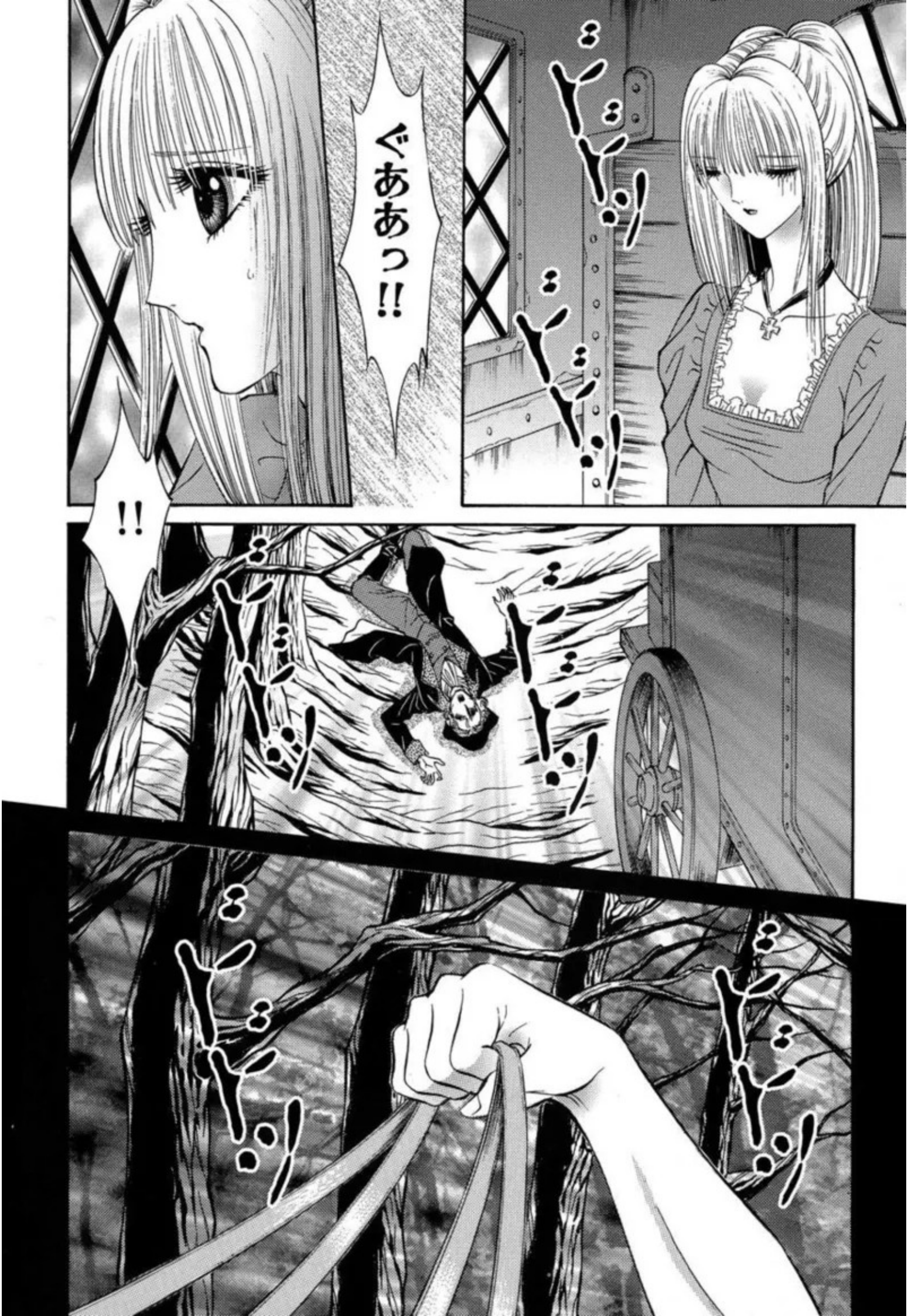
ギャアアアッ

!!

まさか…

ガチャ…
ああっ!!
ハ…ハンス
ドドッ
ドドッ

エミリー
おまえを
殺人容疑で
連行する
この家の人々を
殺した嫌疑だ
………
わ…
私は…


ぐあああっ!!
!!

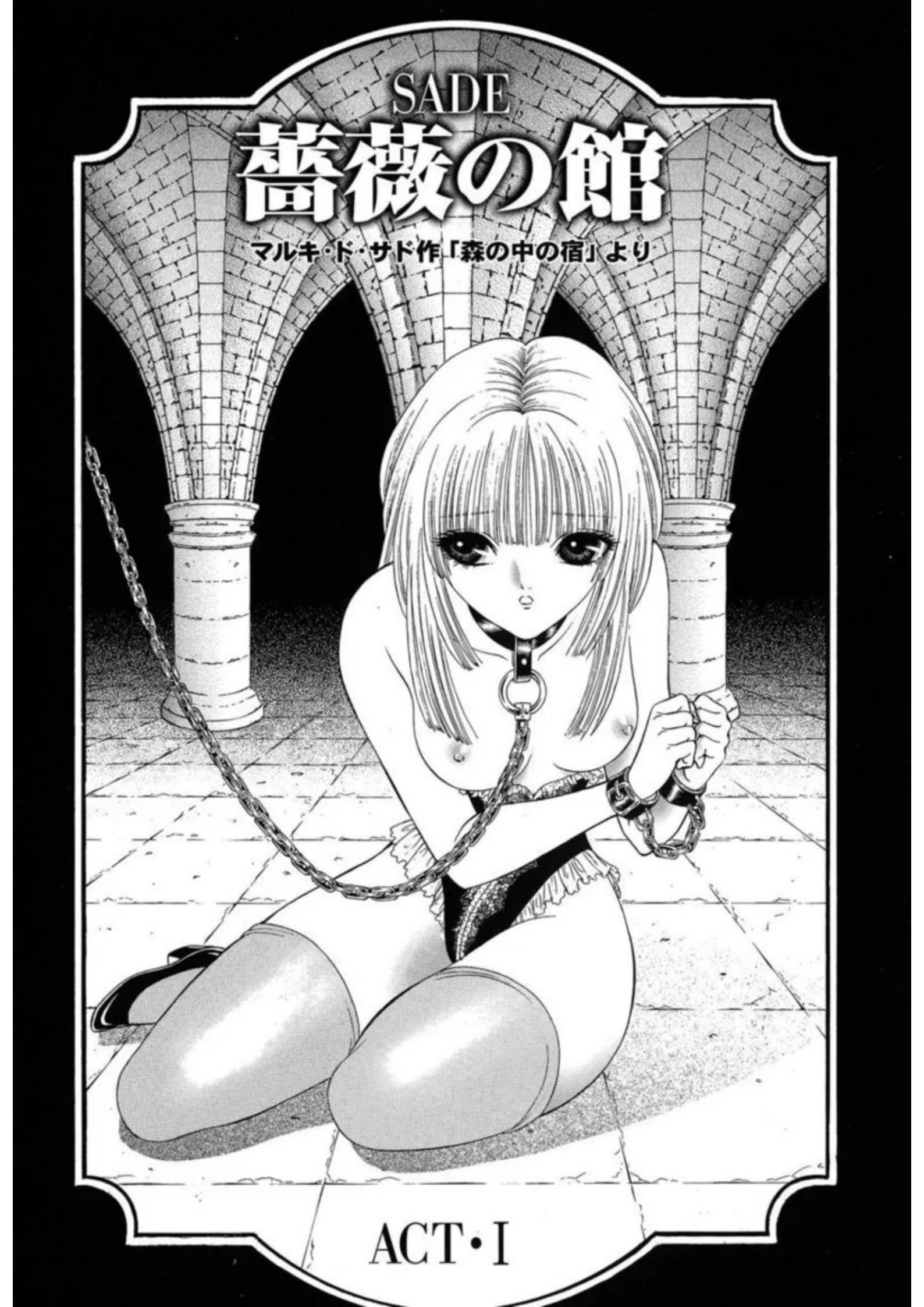
ドドッ
ドドッ
ドドッ
エミリーを乗せた馬車は森の奥へ奥へと姿を消した
ドドッ
ドドッ
その行方は誰にもわからない

ただひとつ
言えることは

エミリーと
ハンスの腕は
生涯 離れることが
なかったということ

これが
エミリーと
奇妙な腕の
物語である…

Eミリーと奇妙な腕※おわり


SADE
薔薇の館
マルキ・ド・サド作「森の中の宿」より
ACT・I

ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
ドッ
ドッ
ドッ
!!

ドッ
ドッ
ドッ
ドッ

ドッ
ドッ
ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ギイイイイ

お嬢さん
どうかなさったの
かしら？

こんな
森の中を
たった一人で

はい…

あの…一番近くの街まで行こうと思いまして…

この深い森を抜けるにはゆうに3日はかかるでしょう

あなたのようなかよわいお嬢さんが一人で行くのは危なくってよ

もしよろしければ今夜は私の館にお泊まりなさい

私の館はね森の中ほどにありますの

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ご親切にありがとうございます…

じつは森に来る前に2日間も歩きづめだったものですから

なにか…
深い事情が
おありのような
……

じつは……

2日前まで 私は
とある お屋敷で
メイドをして
おりました…

そのお屋敷で
未亡人の
伯爵夫人と

そのご子息の
侯爵にお仕え
していたのです

ある日 私は
侯爵に呼び出され
恐ろしい 謀(はか)りごとを
持ちかけられたのです

それは
財産をにぎっている
母親を亡きものにし
遺産を得ると
いうものでした

そして 私は
母親を毒殺する
役目をいいつけ
られたのです

私は伯爵夫人に
普段からいろいろ
良くしていただいた
ご恩があります

どうしてそんな
恐ろしいことが
できるでしょう…

私がそれを
拒みますと

侯爵は私に
むごい体罰を
くわえるように
なったのです

ですが夫人が殺されるのはもはや 時間の問題だと感じ

私は裁判所にこのことを訴えるためお屋敷をあとにしたのです…

きっと侯爵はこの 謀(はか)りごとが外にもれるのを恐れ必死になって私を探すでしょう

ですから身を隠しやすい森の中を選んだしだいなのです

まあ…ひどい苦労をなさったのね

でしたら あなたはしばらく私の館で身をひそめていたほうがいいわ

裁判所へは私が代わりに行ってさしあげてよ

ああ奥様!!

私 なんとお礼したらいいのか

あなたのような
純粋で美徳の心の
持ち主を
放っておくわけには
まいりませんもの…

ドッ
ドッ
ドッ
ドッ

ステキなお庭…
薔薇の花が
咲き乱れて

薔薇はね
世界一美しく
高貴な花だと
思っていますの

赤い薔薇は
とくにね…

ギイイイイ

さあ
お入りになって…

お帰りなさいませ
ドロティア様

さあ
これでも飲んで
くつろいで
ちょうだいね

なんて
おいしいワイン
でしょう

あなたが
この館にいる
あいだは

私と同じように
この二人のメイドが
あなたに仕える
ことになるわ

そんな
もったいない
ことです…

ガチャ…

この娘はソフィー
森で見つけましたのよ
どうかしら？綺麗な娘だと思いませんこと？デステル兄様…
ドロティアどなたかなその女性は
ああ…確かにね

この優しげで可愛らしい顔……

お…奥様？

きっと肉体の方も素敵だわ

この娘ほど私たちの仕事にうってつけの娘はいないでしょう

え？

ああたまらないね……

スグにでも試してみたいくらいだよ

私が先ですわ
ウフフフフ…
フフフ…
まったくおまえの
女好きにも
困ったものだ
あ…あの
私やっぱり
失礼します…
だめよ
ソフィー
残念だけど
おまえはもう
館から
出られないのよ
ど…
どういう
ことです?

じつはね……
先ほどおまえが
話してくれた
伯爵夫人だけど

2日前に
殺されたのだそうよ

ええっ!!

きのう
裁判所から
手配書が
届けられてね

なんでも
メイドが女主人を
殺して逃げたのだとか
……

そ…そんな
ウソです!!

侯爵は 私に
濡れ衣を
着せようと…

ほう…
では おまえは
その侯爵が母親を
殺したといいたい
わけだな

どうか…

どうか信じてください

私たちはね裁判所におまえをつき出そうなんて思ってやしませんよ

もっともおまえしだいですけどね

私しだい？……

あ……

な…なんなのこの感覚…

ウフフフ
効いてきた
ようね…

先ほどあなたが飲んだ
ワインには

薔薇から作った
媚薬が入っていたのよ

そ…
そんな……

さあ
いらっしゃいな
ソフィー

まずは おフロで
肉体を洗って
あげましょう

そこで
おまえの肉体の
あらゆる場所を
じっくりと見せて
もらいますわ

ソフィー
おまえは
すごく綺麗だわ…

おまえを
見ていると 私
ウットリして
しまうの…

あなたは…
私を騙したの
ですね…

私はね…
気に入った女を
手に入れるためには
なんだってするのよ

あぁ…
やめてください

ほ〜ら
こんなに蜜を
あふれさせて
……

あぁ…

や…
やめて

だけど
気を落とすことなど
なくってよ

おまえも
この館の生活に
スグに慣れるで
しょうからね

あぁ…

それにきっと
何か月も
経つうちに

この館から
逃げたいなんて
思わなくなる
はずだわ

おまえはここで
本当の快楽を
知ることになるのだから…

よく似合ってよソフィー

なぜこんな格好を……

そのうちわかりますよ

お客様がお見えになりました

そうか……

ソフィー…さっそくおまえの出番がきたようだな

出番？……

この館はねじつは宿屋でもあってね

森の中をたどる旅行者にとってこの館はとても都合のいい場所にあるわけだ

だが俺たちが宿屋なんかをやっているのはなにも商売のためなんかじゃない…

財産ならどんな贅沢にふけようとも困らないほど持っている

そう…
これはいわば
貴族の道楽と
いうやつでね

この館に
足を踏み入れた
旅人の命を奪って
楽しんでいるのさ
ゲームのようにね

そ…
そんな!!

わ…私には
人殺しなんて
ムリです!!

なにもおまえに
人殺しになれと
いってるんじゃ
ないんですよ

むしろ
おまえには
気の毒な客を
救ってやって
ほしいのです

救う!?

そうよ…
私たちが命を
狙っていることを
客に知らせて
もらいたいのよ

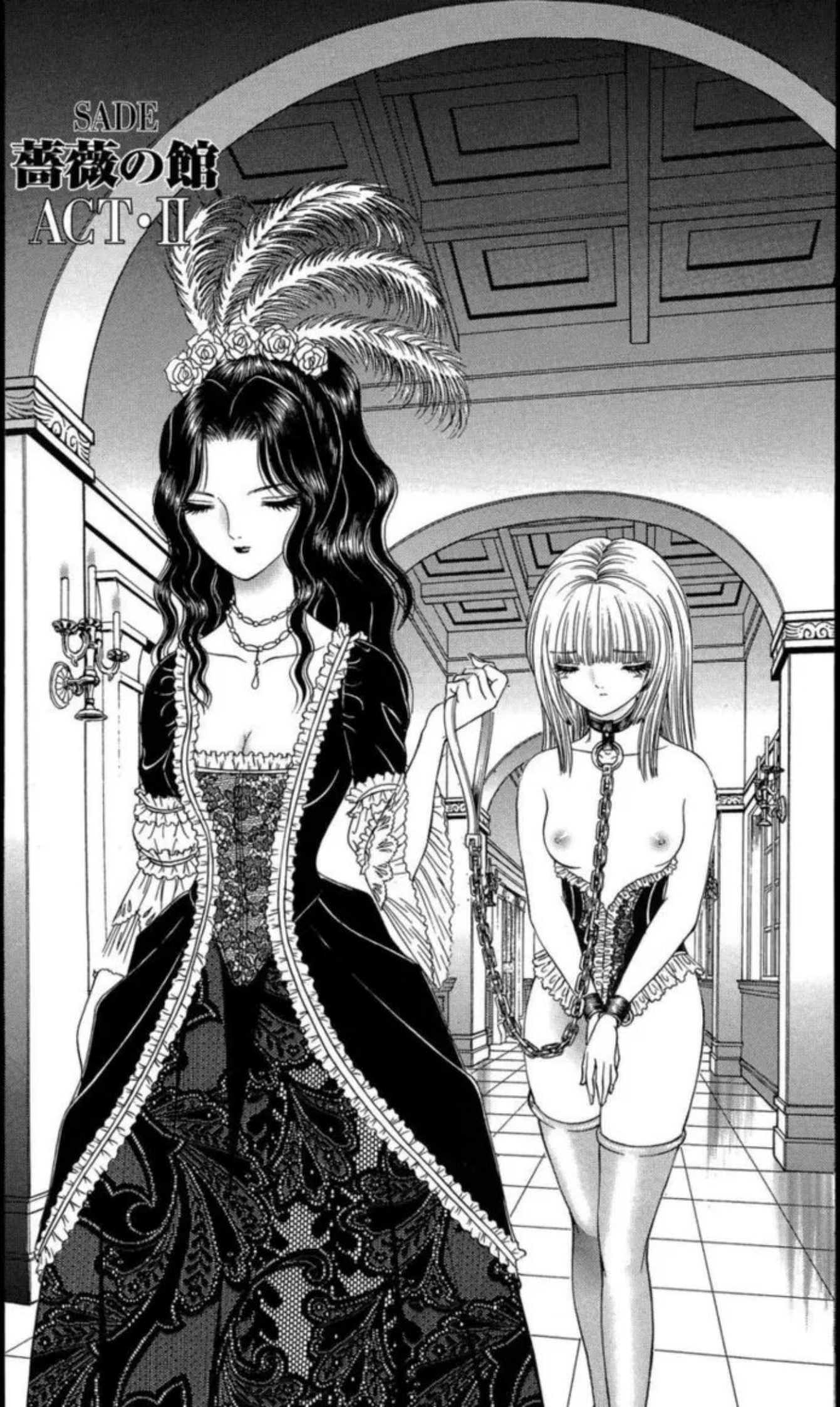
もし おまえが
一人でも客を
逃がすことが
できたなら

その時は
おまえを自由に
してやろう

俺たちは
決しておまえを
追ったりはしない

どうだね？
ソフィー
これがおまえの
役目なんだよ

さて…
救いの天使と
なれればいいが
フフフフ…


SADE
薔薇の館
ACT・II

ハアッ

ハアッ

足に力が入らない……

ガクッ

うっ……

あぁ……

どうしたのかしら？ソフィー

ウフフ…まだ少し媚薬が効いているようね

ほぉら…
まだこんなに
蜜がいっぱい

あぁ…

や…やめて
ください…

ヌ…

きっと
客もよろこんで
くれるわ

カチャ

さあ…
行くのよ
ソフィー

客の命を
救うことが
できたら…

本当に私を
自由にして
くださいますね

約束は
守るわ…

コン
コン

カチャ

ほう〜
こいつは
なかなかの
上玉じゃないか

さあ
つっ立ってないで
こっちへ来い!!

グッ

さっき ここの
ご主人から
聞いたが

おまえは
どんな淫らな
ことでもしてくれる
そうじゃないか

ち…ちがいます
私はそんな…

こんな
刺激的な姿で
現れておいて
うぶなフリも
ないだろう

や…やめて
ください!!

私は!!

この女…純情そうな見かけによらず泉があふれていやがるぞ
わ…私はあなたがたにお伝えしたいことが…!!
うっ!!
あっ
あぁんっ

こんなことを
されても…

私はこの人たちを
救わなければ
ならないの？…

あぁっ

あんっ

フッフッフッ
……

久々にいい娘を
手に入れたな
ドロティア

はやく
あの娘を交えて
楽しみたいですわ

ウフフフ…

あっ

ああっ

お…
お願い…

私の話を…

あ…あなたがたは命を狙われているんです

えっ？

それはいったいどういうことだ？

こ…この館の人たちは恐ろしい殺人鬼なのです

私は森で捕まりここで脅かされているんです

な…なんだって……？

本当かそれは!!

身を守るための武器かなにかをお持ちでしょうか？

ああ…ピストルならあるが…

では私はあなたがたを手引きいたします

逃げるしたくをしてください

ど…どうする？

ウソをついてるようにも見えないしな

では部屋の外の様子を確かめてまいります

わかった…おまえを信用しようじゃないか

ガシャアアアアアンン

!!

い…
今の音は
いったい…

ガチャ

ゴメメメメメメメ

ギイッ
フフフフ…
ヤツら まんまと罠(トラップ)に はまりやがった
こっ… これは!!
罠(トラップ)!?

この館には
いたるところに
罠が仕掛けられて
いるんだよ

死の罠がね
フフフフ…

そ…
そんな…

アレを
見てみろ

こっ…
これは!!

あの客室は
床がぬけるように
なっていてね

な…なんて
むごいことを
……

ごらんのとおり
地下まで
まっさかさまだ

私たちはね
ソフィー

このような
刺激がなければ
興奮しえないん
ですよ

デステル兄様
私 だんだんと
気が高まって
まいりましたわ
……

ああ
俺もだよ
ドロティア

このブザマな
尻を前にして
大いに楽しもうじゃ
ないか

あっ

あぁんっ

いいわ
ソフィー

もっと…
もっと舌を
動かすのよ

ハァハァ

いい子だ
ソフィー

グッ

!!

ああああっ

あっ

おまえとは仲間としてやっていけそうだ

あぁんっ

だが おまえが俺たちの欲望の犠牲者として血祭りにならない理由はどこにもないのだよ

で…ではいっそのこと殺してください!!

こんな場所で生きていくより死んだほうがましです!!

それは
私たちが決める
ことだわ

だけど　おまえが
私たちを悦ばせて
くれるあいだは
めったなことは
しないつもりよ

ザッ
ザッ

残念ね…
あの人たちを
救えなくって

ここで死んだ客たちの屍は庭の薔薇たちの肥料になるのよ

だからこの庭の薔薇はこのように美しいの

そ…そんな……

お願いです罠の仕掛けを私にも教えてください

それを教えていただかなくては客を救うにも防ぎようがありません

言っただろうソフィー…これは俺たちが楽しむためのゲームなのだ

残念だが仕掛けを教えるわけにはいかない

もし おまえが客を救いたければ自分自身で秘密を探るしかないだろう

もっともそう簡単に見つけられるとは思えんがね…

番外の館 ACT・II ※おわり

SADE

薔薇の館 ACT・III

私は何人もの客の死を目にしてきた

結局だれ一人救うこともできずに…

あっ！
ああっ!!

ああんっ!!

おまえはよく
やってくれてるよ
ソフィー!!

わ…
私にとってこの館は
まさに地獄
そのものです!!

な…なぜ神は
このような
地獄の存在を
お許しになるの
でしょう!?

簡単な
ことだわ
ソフィー

それは
神などこの世に
存在しないという
証なんですよ

ああんっ

そ…
そんな
はずは…

ああっ

この世は悪に満ちている…

もし本当に神がいるのなら無数にある悪の存在を知っていながらなぜなにもせずにいるのだ？

おまえのような正直者の娘が次々と不運にみまわれるのも

神の不在を物語っているのではないのかね？

きっと神さまは…

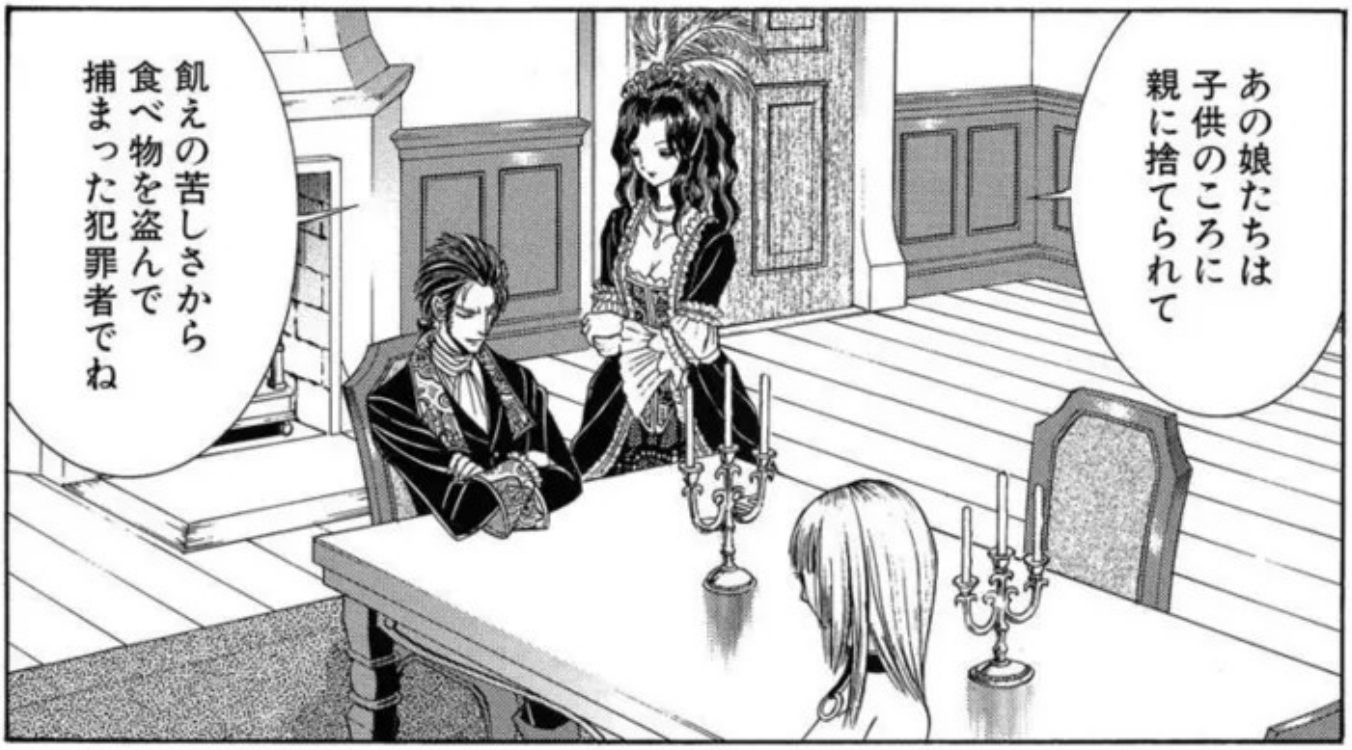
私をためすため試練をお与えになっているのです……

フフフ…どうかしらねえ…

ああっ

いずれにしてもおまえは私たちを楽しませてくれればそれでいいのよ

あの
二人のメイドは
なぜ平気で
いられるんですか


あの娘たちは
子供のころに
親に捨てられて
飢えの苦しさから
食べ物を盗んで
捕まった犯罪者でね

私たちが裁判所へ
裏から手を回して
手に入れたわけ
うまく
手なずけたおかげで
私たちのすることに
すっかり慣らされて
いるわ

あっ…

あ……あれは!!

ブレサック侯爵!!

知り合いか？ソフィー

以前もお話ししましたが……

私がお仕えしていた伯爵夫人を毒殺しその濡れ衣を私にきせた張本人です……

いったいなぜこの館に……

フフフ…こいつは面白いことになってきたぞ…

ブレサックとやらがおまえの姿を見たらどう出るのか…

裁判所へ引き立てるかそれとも殺そうとするか…

私はね
ご主人…

ある女を追って
森の中を探して
いたのですよ

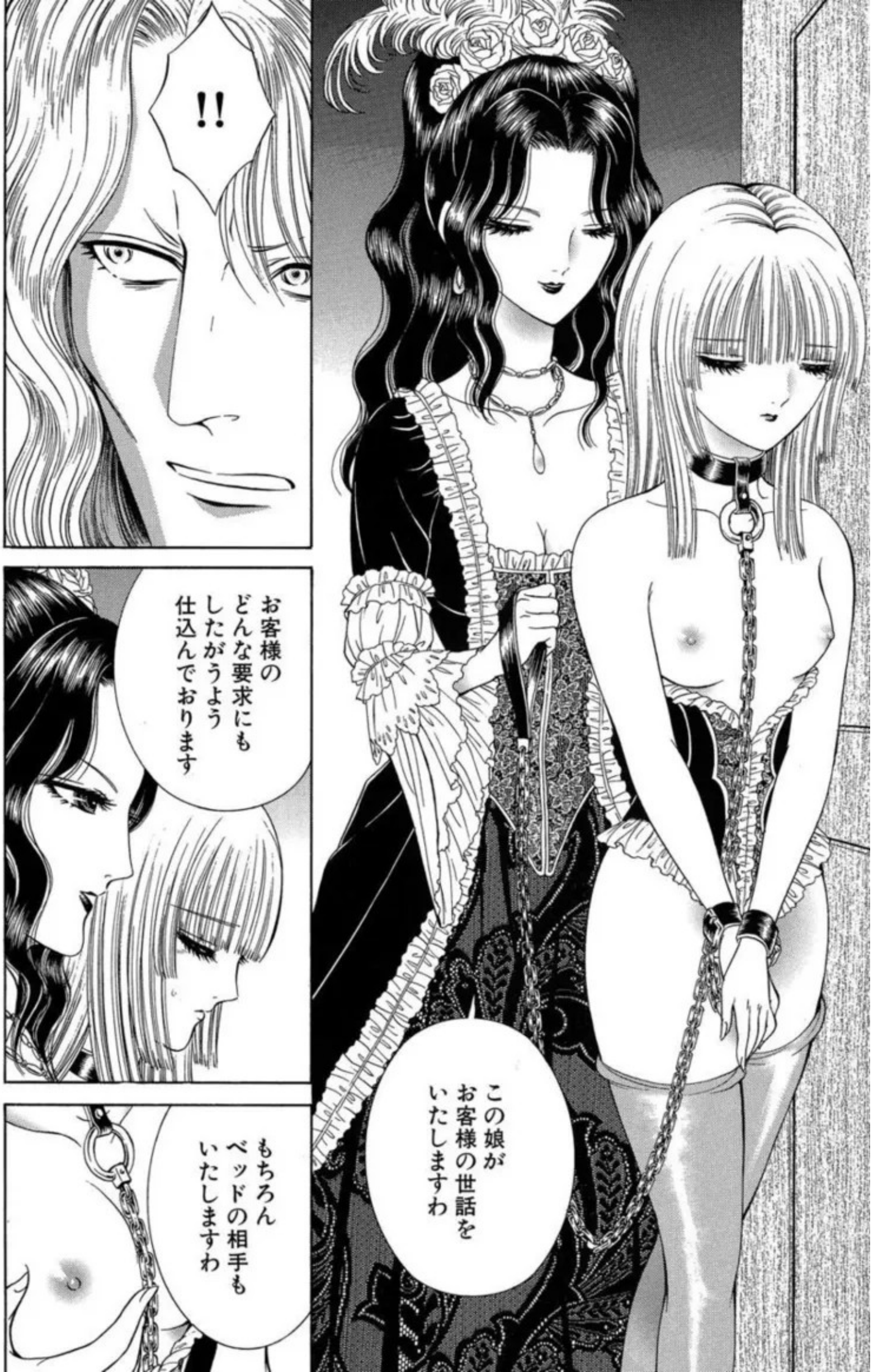
気がついたら
陽も落ちかけ
戻るに戻れないと
思っていたところ
この館を見つけた

それは運がいいと
いうことですよ
夜の森は物騒
ですからな

今夜はゆっくり
くつろがれるが
いい…

さっそく
部屋へ案内
させましょう

カチャ


!!
お客様のどんな要求にもしたがうよう仕込んでおります
この娘がお客様の世話をいたしますわ
もちろんベッドの相手もいたしますわ

どうぞ
可愛がって
くださいませ

探したぞ
ソフィー
まさかこんな所に
いたとはな

今ここで
おまえを殺す
こともできるん
だぞ…

旦那様…
あなたには
ひどい目にあわされ
ましたけれど

それでも…
できればあなたの
命を救って
さしあげたいと
思っています

命を救う?…
それはいったい
どういうことだ!?

ここのご主人は
怖ろしい人で
あなたを亡きものに
しようとたくらんで
いるのです

ま…
まさか!!

あの二人の兄妹は客を殺すことにのみ悦びを感じる殺人鬼なのです

客室にはいたるところに罠が張りめぐらしてあるのです

入ったら二度と生きて出られないでしょう

私はここで囚われの身となり殺人の片棒をかつがされているんです

逃げるなら今です…

おまえが嘘をつくような女でないことは承知している

ソフィーよく言ってくれた

ならば
まずあの二人を
始末せねば…

ブ…ブレサック侯爵!!

殺せるなら殺してみろ!!

ま…まて話を聞いてくれ!!

バアアン

ズキ

バアアン

デ…
デステル兄様!!

ああ…
さあ…
おいでソフィー
おまえの番だよ
いやあっ!!
逃げても
ムダだ!!

ダダンッ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
こ…この部屋はいったい…
このクサリは……

ドンドンドン
!!
ドンドンドン
ここを開けろソフィー!!
どうしよう逃げられない!!
これは!!
ドンドンドン

ゴトッ

あっ!!

ガターン

しまった!!

今の音は!?

となりの部屋か!!

ガチャッ

見つけたぞ
ソフィー!!

死ね!!

ああっ!!

グイッ

ガタン

わあああぁ

あああああああああ

あ…
ああぁ…

わ…私は
なんてことを
……

人を…
人をこの手で殺してしまった……!!
殺してしまった……
ハアッ
ハアッ

お…奥様!!

ソ…ソフィー…

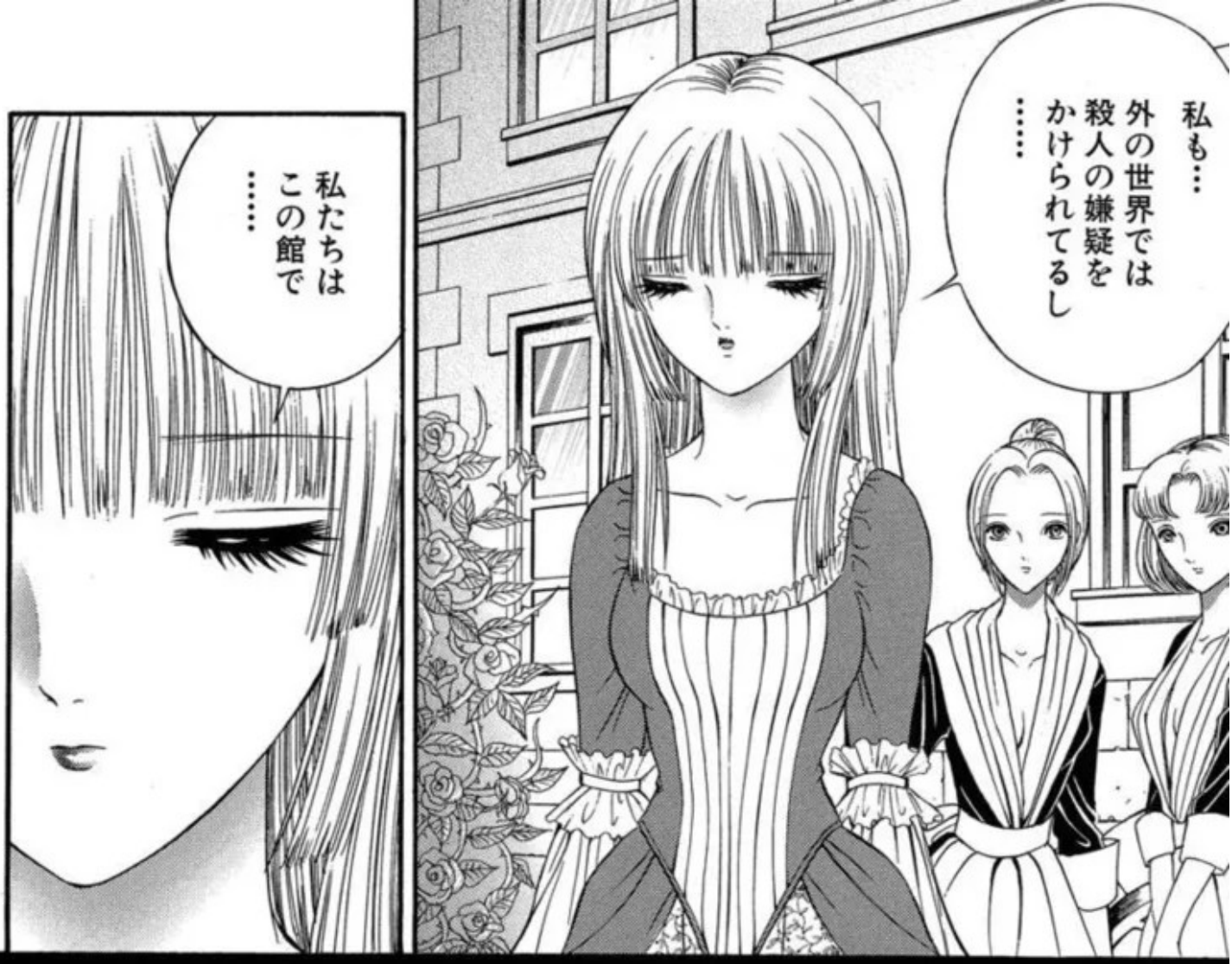
ご…ごめんなさいね……

おまえに……ひどいことを……

い…今さらあやまってみたところで…

わ…私たちは…地…地獄に……

奥様…
あなたたちは
これから
どうするの？
私たちは
ここ以外では
生きていけません
……



薔薇の館 ACT・Ⅲ ※おわり

アクセスお待ちしています!

青林堂刊行書籍ご案内

青林堂●URL http://www.garo.co.jp

全国の書店にて好評発売中!

＊webでもお買い求めできます。

おもひでぽろぽろ 原作 岡本 螢 作画 刀根夕子
［全2巻］ 定価・各850円 ●四六判上製・上巻210頁／下巻194頁

魔夜子ちゃん 完結編 御茶漬海苔 著
［全2巻］ 定価・各819円 ●B6判・並製・上巻214頁／下巻190頁

炭焼物語 作画 武野繁泰 原作 宇江敏勝
定価・1365円 ●四六判上製・242頁

ダ・ヴィンチ 村野守美 著
定価・609円 ●B6判・並製・256頁

守美の**日本昔ばなし** 村野守美 著
定価・924円 ●B6判・並製・256頁

まいっちんぐマチコ先生 えびはら武司 著
＊ピンクボックス＊ブラックボックス＊ホワイトボックス
定価・各714円 ●共にB6判・並製・各224頁

The♡かぼちゃワイン ～sequel～ 三浦みつる 著
定価・819円 ●B6判・並製・224頁

世界美女秘話シリーズ1 **女帝 エカテリーナ** 榎本由美 著
定価・1000円 ●A5判・並製・192頁

キンランドンス 改訂版 丸尾末広 著
定価・1470円 ●A5判・並製・192頁

ラブラブ愛してる♥ 牛乳リンダ 著
定価・各1000円 ●A5判・並製・144頁

千之ナイフの本

＊古典名作集1 **SADE** 定価・819円 ●B6判・並製・208頁
＊古典名作集2 **TEMPEST** 定価・819円 ●B6判・並製・210頁
＊古典名作集3 **DECAMERON** 定価・840円 ●B6判・並製・222頁
＊古典名作集4 **FAUST** 定価・840円 ●B6判・並製・200頁
＊チャイニーズ姑娘編 **EDEN** 定価・819円 ●B6判・並製・163頁
SEPIA 定価・840円 ●B6判・並製・163頁
レズビアン ～少女愛～ 定価・1155円 ●A5判・並製・224頁

ケータイURL http://mob.garo.co.jp ケータイコミックサイト「モバガロ」にて、作品を配信中!

※表示の価格は消費税が含まれます。［2008年6月現在］

SEIRINDO BOOK SERIES

2008年 6月23日 初版 発行

著者……千之ナイフ
©N. Senno

発行人……蟹江磐彦

発行所……株式会社青林堂
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-6-19
電話:03-5468-7769

装幀……原 孝夫

印刷所……株式会社 光邦

ISBN978-4-7926-0408-0 C0979
Printed in Japan
乱丁、落丁がありましたらおとりかえいたします。
URL http://www.garo.co.jp

書名　Sade〈2〉
著者名　千之ナイフ【著】
発行者名　㈱青林堂
発行　㈱青林堂
〒150－0002
東京都渋谷区渋谷3－7－6　第6矢木ビル4F
電話：03－5468－7769
URL：http://www.garo.co.jp
著作権　ⓒ千之ナイフ
電子書籍制作日　2012年12月4日
電子書籍制作会社　株式会社丸井工文社